

総合開館 20 周年記念

「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編」展

Dawn of Japanese Photography: The Anthology

2017年3月7日（火）～2017年5月7日（日）

東京都写真美術館では、2006年度より隔年で、日本全国の美術館、博物館、資料館などの公開機関を持つ施設が管理する幕末～明治期の写真・資料を調査し、体系化する展覧会「知られざる日本写真開拓史」シリーズを開催してまいりました。

本展では、10年以上におよぶ調査の総仕上げとして、全国から選りすぐられた初期写真を紹介する「総集編」を開催いたします。



田本研造

《箱根市中取締 裁判局頭取 土方歳三》（部分）
ゼラチン・シルバー・プリント（後年のプリント）
明治2年 函館市中央図書館
（展示期間：4月25日 - 5月7日）

展示概要

幕末の開国と時を同じくして、日本にもたらされた写真。

芸術作品に用いられる、つまり〈夜明け〉となる以前の写真は、どのようなものだったのでしょうか。それらに作品性は宿るのでしょうか。そして、写真はどのように日本に受け入れられ、発展し普及していったのでしょうか。

江戸時代末期、日本において「写真」は西洋技術の象徴でした。横浜や長崎などに居留地ができ、訪日する外国人写真師との関わりから、江戸のうかいぎょくせん鵜飼玉川や、長崎の上野彦馬、横浜のしもおかれんじょう下岡蓮杖など、日本人の写真師が現れます。そして、日本が西洋的近代化へ向かう流れとともに、さらに次の世代へと伝承されていきました。

本展では、平成 18（2006）年度から隔年で開催してきた 4 つの地方編（「関東」「中部・近畿・中国」「四国・九州・沖縄」「北海道・東北」）の総まとめとして、現存する貴重なオリジナルの写真作品・資料を〈であい〉〈まなび〉〈ひろがり〉三部構成で展覧します。

- 〈であい〉写真流入期の作品・資料
- 〈まなび〉第一世代写真師の作品・資料
- 〈ひろがり〉第二世代以降の作品・資料

出品作品および資料は、国指定重要文化財の写真作品をはじめ、当館収蔵作品および協力機関である日本大学芸術学部の収蔵作品のほか、日本全国の公開機関を持つ施設への収蔵調査によって選ばれた優品群です。イメージではなく「物」として存在するオリジナルとともに、台紙裏面のデザインを鑑賞できる立体的な展示や写真帖の全内容を投影展示するほか、写真に関わる版画、写真機材、書簡などを一堂に会して紹介します。



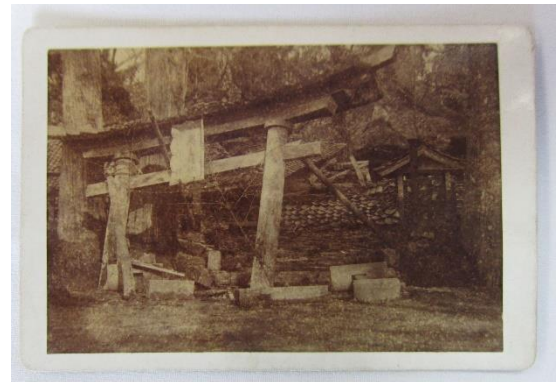
（松平忠礼の妻、豊子像）（山内家写場）明治初年
アンプロタイプ 東京都写真美術館蔵

本展は、初期写真の文化を直截に感じられる稀有な機会であるとともに、幕末から明治の写真史を再考証する新たな起点となる試みです。10年にわたる展覧会シリーズの集大成をお楽しみください。



エリファレット・ブラウン・ジュニア
《田中光儀像》嘉永7年 ダゲレオタイプ
個人蔵

1854年、ペリー再来航に同行した写真師エリファレット・ブラウン・Jr.が、日本で最初に撮影した日本人ポートレート
の一枚。国指定重要文化財（展示期間：4月11日-5月7日）



左) 宮内幸太郎 《(明治三陸津波写真)》『中島待乳写真台帳』より 明治29年 鶏卵紙 石黒敬章・一般財団法人日本カメラ財団
右) 制作者不明 《飛鳥神社矢大臣門崩壊之真景》明治27年 鶏卵紙 本間美術館

北海道・東北の初期写真調査では、記録や伝達を目的に制作された写真が多く見つかった。現在の「報道写真」のような作例といえる。その中には天災を記録したものもある。写真右は、明治27年の酒田地震（庄内地震）を記録したものであり、撮影者は不詳であるものの、明治期の天災記録写真として重要な作例である。



左) 上野彦馬 題不詳（上野八重子像）明治35年頃 ゼラチン・シルバー・プリント
長崎歴史文化博物館（展示期間：3月7日-4月9日）

右) 鈴木真一 《(子供の武将)》明治時代中期 鶏卵紙に手彩色 後藤新平記念館
左は、上野彦馬が孫娘の晴れ着姿を撮ったポートレート。右は、初代鈴木真一と武将姿の孫を撮ったものである。どちらも自身の子供や孫を使って、店頭や営業用の見本写真を制作したのではないかと推測される。

本展の見どころ

日本に散逸する初期写真を、地道に調査

作品調査は、まず日本全国の公開機関を持つ施設に、所蔵する初期写真作品や資料に関するアンケートを送付。その回答をもとに、担当学芸員が電話調査や現地での実見を実施し、出品交渉をおこないました。「公開機関を持つ施設」を調査したのは、今後も一般の人々が鑑賞できる可能性のある写真を発掘したいという思いからです。また、写真の専門美術館として、その写真・資料の保存や継承の重要性を普及するためでもあります。これまでにアンケート調査を行った施設は 7,987 カ所。この地道な調査により、散逸していた日本の初期写真が体系化されていきました。

10年にわたる展示の集大成

この展覧会シリーズが始まったのは 2007 年 3 月。「関東」「中部・近畿・中国」「四国・九州・沖縄」「北海道・東北」の順で、2013 年 5 月までに 4 回の展覧会を開催しました。2011 年の東日本大震災により、2013 年 3 月に開催した「北海道・東北」編では、次世代に写真を継承する重要性をより深く考えた展示となりました。5 回目となる今回は、10 年を超える調査・展示の集大成として、学芸員が特に重要と考える名品・逸品を一堂にご紹介します。

幕末～明治の息吹を実感する、初期写真のおもしろさ！

歴史上の有名な人物が写真に写っている。その不思議な現実感、誰にでもすぐに楽しめる初期写真の魅力といえるでしょう。さらに、時代劇でしか見たことなかった、むかしの普通の人たちの姿や暮らしぶりを写真で見ると、私たちは、自分のルーツに一気にタイムトリップできます。そして、写真師たちは、どういう意図でこれらの写真を撮ったのでしょうか。その目的から当時の世情を知ることができます。本展はレキジョも、写真マニアも、そうでない方も、初期写真を身近に楽しむことのできる展覧会です。

国指定重要文化財を出品。展示は立体的&ダイナミックに

9月にリニューアル・オープンした当館の展示室は、床や壁、照明や空調などの展示環境がグレードアップ。作品や資料がさらに美しく鑑賞できるようになりました。ペリーとともに日本を訪れたエリファレット・ブラウン・ジュニアによる《田中光儀》像（嘉永7[1854]年）などの国指定重要文化財も展示します。台紙裏面のデザインを鑑賞できる立体的な展示では、台紙に記された文面や印章、装丁などから、その写真がたどってきた歴史を読み解くことができます。

江戸のパノラマ写真と記念撮影！

当館収蔵作品の中で、特に人気の高い初期写真が、フェリーチェ・ベアトによる《愛宕山から見た江戸のパノラマ》です。展示室前ロビーには、このパノラマ作品を大きくした撮影コーナーが登場します。ご鑑賞の記念に、自由に撮影をお楽しみください。



フェリーチェ・ベアト《愛宕山から見た江戸のパノラマ》1863（文久3）-64（元治元）年 鶏卵紙4枚構成 東京都写真美術館蔵
現在の東京都港区愛宕の丘陵から江戸市中を撮ったパノラマ写真。右奥には台場が見える。同じく本展に出品が予定されているイギリスの週刊新聞『The Illustrated London News』（1864年10月20日号）には、この写真を元に作られた銅版画が掲載されており、当時の江戸の風景を海外に伝えるために撮影されたとも考えられる。

出品点数（予定）

373点

会期中、一部作品およびアルバムページの展示替を行います

第一期 3月7日（火）～3月20日（月・祝）

第二期 3月22日（火）～4月9日（日）

第三期 4月11日（火）～4月23日（日）

第四期 4月25日（火）～5月7日（日）

関連イベント

初期写真 国際シンポジウム「幕末」

International Symposium: Photography in Bakumatsu Japan

主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協力 日本大学藝術学部

日時 2017年3月26日（日）15:00～18:00

会場 東京都写真美術館1階ホール

ゲスト 高橋則英（日本大学藝術学部教授）

「江戸最後の20年と写真」

クリスチャン・ポラック（明治大学政治経済学部客員教授）

「横須賀写真：エミール・ド・モンゴルフィエの日本（1866-1873）」

セバステイアン・ドブソン（初期写真研究家）

「プロイセンドイツが観た幕末日本—1860-61年のオイレンブルグ遠征団が残した写真」

ルーク・ガートラン（セント・アンドリュース大学准教授）

「光をもたらした人々：宣教師と19世紀日本の写真」

范如苑（国立台南大学動画媒体設計研究所助理教授）

「幕末の写真表現性について—外国人写真家が見た日本と台湾」

フィリップ・ダレス（チューリッヒ大学研究員）

「幕末のスイス人写真師：開港期に関するピエール・ジョセフ・ロシエの新発見」

定員 190名（整理券番号順入場／自由席）

入場料 無料（本展チケットをご持参ください）

当日10:00より1階ホール受付にて入場整理券を配布します。

写真開拓史講座「初期写真を巡る講演会」

4月1日(土) 「“写真”と“文献”資料から読み解く写真史」

谷昭佳(資料編纂所史料保存技術室[写真]技術専門職員)

4月8日(土) 「初期写真を見ることについて」

三井圭司(東京都写真美術館学芸員)

4月15日(土) 「初期写真をめぐる定着されたものたちの話」

鳥海早喜(日本大学芸術学部専任講師)

会場 東京都写真美術館スタジオ

時間 各日とも 15:00-17:00

定員 50名(自由席)

受講料 無料(本展チケットをご持参ください)

各回の当日10:00より1階総合受付にて受講整理券を配布します。

※知られざる日本写真開拓史展チケットをご呈示の上、整理券をお受け取りください。

古典技法ワークショップ「鶏卵紙プリントワークショップ」

Aコース 4月22日(土) 13:00-17:00

Bコース 4月23日(日) 13:00-17:00

講師 エバレット・ブラウン(元 epa 通信社日本支局長/ブラウンズフィールド代表)

鶏卵紙の制作プロセスを体験するワークショップです。有料、事前申込制、先着順。

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1・3・5金曜日および、5月3日(水・祝)、5月4日(木・祝)、5月6日(土)、5月7日(日)は14:00より、担当学芸員による展示解説を行います。展覧会チケット(当日消印)をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

English Gallery Talk

On Friday, April 14 from 6 pm and Thursday, April 13 From 4 pm,

Japan Times writer Alice Gordenker will guide visitors through the exhibition. Tours are in English and last about an hour. Free with museum admission; no reservations required.



「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 四国・九州・沖縄編」(2011年3月8日-5月8日開催) 展示風景より(参考図版)

このリリースに掲載されている図版（参考図版を除く）をデータにてご用意しております。
掲載をご希望の際は、下記広報担当までご連絡ください。

図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。
図版のトリミングはできません。

開催概要

主催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
協賛 ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網
協力 日本大学芸術学部／一般財団法人日本カメラ財団
会期 平成 29（2017）年 3 月 7 日（火）～5 月 7 日（日）
会場 東京都写真美術館 3 階展示室
東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel 03-3280-0099 URL <http://topmuseum.jp>
開館時間 10:00～18:00（木・金は 20:00 まで） 入館は閉館 30 分前まで
休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は、翌火曜日が休館。ただし 5 月 1 日は開館します）
観覧料 一般 700(560)円／学生 600(480)円／中高生・65 歳以上 500(400)円
※（ ）は 20 名以上の団体料金 ※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳
をお持ちの方とその介護者は無料 ※第 3 水曜日は 65 歳以上無料

このリリースのお問い合わせ先

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館
1-13-3 Mita, Meguro-ku, 153-0062, Tokyo, Japan

Tel 03-3280-0034 Fax 03-3280-0033 <http://topmuseum.jp>

展覧会担当 三井圭司 k.mitsui@topmuseum.jp 関次和子 k.sekiji@topmuseum.jp

広報担当 久代明子 平澤綾乃 前原貴子 press-info@topmuseum.jp